

作成日 2024/9/4
改訂日 2026/3/25

安全データシート

1. 化学品および会社情報

化学品の名称	オキサン
製品名	Oxane
製品コード	テトラヒドロピラン
SDS 整理番号	F-016569
会社名称	ZC24161-02
住所	善ケミカル株式会社
電話番号	東京都台東区台東 2-30-2 善ビル 3 階
FAX 番号	03-3839-5861
緊急連絡電話番号	03-3839-5877
	03-3839-5861

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分 2
皮膚腐食性/刺激性 区分 2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 2A

健康に対する有害性

該当区分なし

環境に対する有害性

該当区分なし

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については「分類対象外」、「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H225 引火性の高い液体および蒸気。

注意書き

【安全対策】

P210 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地しアースを取ること。
P241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

P370+P378 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。
P303+P361+P353 皮膚または髪に付着した場合: ただちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。

【保管】

P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【廃棄】

P501 内容物、容器の廃棄を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS 分類に関係しないまたは
GHS で扱われない他の危険有
害性

情報なし

重要な徴候および想定される非
常事態の概要

情報なし

3. 組成および成分情報

単一物質・混合物の区別
化学名または一般名

慣用名または別名

CAS 番号

分子式(分子量)

構造式または示性式

単一物質

オキサン

Oxane

THP

オキサシクロヘキサン

テトラヒドロ-2H-ピラン

ペンタメチレンオキシド

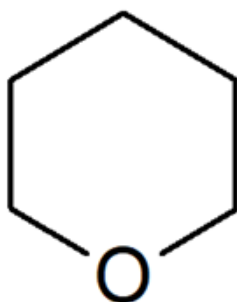
Oxacyclohexane

Pentamethylene oxide

Tetrahydro-2H-pyran

142-68-7

C₅H₁₀O (86.13)



成分および濃度または濃度範囲

官報公示整理番号

化審法

安衛法

GHS 分類に寄与する成分

98.0 %以上

5-5761

8-(4)-201

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸が苦しそうな場合は酸素吸入をすること。
呼吸をしていない場合は人工呼吸を施すこと。ただし口対口蘇生法は避けること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

ただちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと、または取り去ること。
皮膚を多量の水と石けんで十分に洗うこと。
医師に連絡すること。

眼に入った場合

水で 15 分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
まぶたの裏なども十分に洗浄すること。
医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。
意識のない場合は口に何も与えないこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状および遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

適切な保護具を着用すること。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤

二酸化炭素(CO₂)、泡、粉末消火剤、砂

使ってはならない消火剤

水(火災を拡大し危険な場合がある)

火災時の特有の危険有害性

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。蒸気は空気と爆発的混合物を形成することがある。

特有の消火方法	蒸気は空気より重く、床に沿って広がることもある。 関係者以外は安全な場所に退去させること。 消火作業は風上の安全な地点から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いること。 周辺火災の際は危険でなければ火災区域から容器を移動すること。 容器が熱にさらされているときは、移動させず、散水して容器を冷却すること。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却すること。 汚染された消火水は収集し、排水溝などに流れ込まないように注意すること。 消火後の残骸や消火に用いた消火剤などは関係法規に従って廃棄すること。 個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用すること。
消火活動を行う者の特別な保護具および予防措置	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	個人用保護具を着用すること。 漏洩物に触れたりその中を歩いたりしない。眼、皮膚への接触や吸入も避けること。 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止すること。 風下の人を退避させること。 低地から離れること。 漏出場所の風上から作業すること。 十分に換気を行うこと。 すべての着火源を取り除くこと。
環境に対する注意事項 回収・中和	環境中に放出しないこと。 少量の場合は乾燥砂、不燃性吸収剤などに吸収させて密閉できる容器に回収すること。 大量の場合は盛土で囲って流出を防止すること。 付着物、回収物などは関係法規に基づき速やかに処分すること。
封じ込めおよび浄化の方法および機材	すべての発火源を速やかに取除くこと(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。
二次災害の防止策	漏出物を取扱うとき用いるすべての設備は接地すること。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いること。 危険でなければ漏れを止めること。 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収すること。 付近の着火源、高温体などを速やかに取り除くこと。 着火した場合に備えて消火用器材を準備すること。 火花を発生しない安全な用具を使用すること。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。
7. 取扱いおよび保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	『8.ばく露防止および保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
局所排気・全体換気 安全取扱注意事項	『8.ばく露防止および保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行うこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 作業員は化学品の取扱いについての適切な訓練を受けていること。 適切な保護具を着用すること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 漏れ、あふれ、飛散しないよう注意し、みだりに蒸気を発生させないこと。 蒸気やエアロゾルが発生する場合には、換気、局所排気を用いること。 できれば密閉系で取扱うこと。 万一 漏れ出たときのために処理剤、処理装置などを準備しておくこと。

容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、または引きずるなどの粗暴な取扱いをしないこと。
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。炎や高温のものから遠ざけること。
 静電気対策を行うこと。
 万が一火災が発生したときのために適切な消火設備/消火剤を準備しておくこと。
 口に入れないこと。
 皮膚との接触を避けること。
 粉じん、ガス、ミスト、蒸気、スプレーなどを吸入しないこと。
 眼に入れないこと。
 この製品と身体とのあらゆる接触を避けること。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 汚染された衣類を再利用する場合は洗濯すること。
 空の容器でも内部に製品が残存している場合もあるので取扱いには注意すること。
 使用していないときは容器を密閉しておくこと。
 『10.安定性および反応性』を参照。
 この製品を使用するときに飲食または喫煙をしないこと。
 取扱い後は手や顔など、露出した部分をよく洗い、うがいをする。

接触回避
衛生対策

保管

技術的対策
混触危険物質
安全な保管条件

情報なし
 『10.安定性および反応性』を参照。
 容器を密閉し、正しい向きに立てて保管すること。
 暗所に保管すること。
 換気の良い場所で保管すること。
 直射日光や火気、熱、スパーク、混触危険物質、食料などから離して保管すること。
 静電気対策を施すこと。
 容器を物理的な衝撃から保護する措置を講ずること。
 製品の漏れがないか定期的に確認をすること。
 万一 漏出したときに備えて必要な処理剤、処理装置などを準備しておくこと。
 火災に備えて保管場所には消火剤などを備えておくこと。
 施錠して保管すること。
 ガラス

安全な容器包装材料

8. ばく露防止および保護措置

許容濃度
日本産衛学会
ACGIH
設備対策

設定されていない。
 設定されていない。
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 防爆型の電気・換気・照明機器、装置、設備を使用すること。
 静電気放電や帯電に対する予防措置を講ずること。
 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
 ばく露を防止するため、装置、機器の密閉化あるいは局所排気装置を設置すること。
 排気装置を付けて、蒸気などが滞留しないようにすること。
 装置は耐腐食性のある材質を用いて作ること。
 製品に作業者が直接触れたり、ばく露したりしないような配慮をすること。
 非常事態に備えて避難動線を確保しておくこと。

保護具

呼吸用保護具
手の保護具
眼、顔面の保護具
皮膚および身体の保護具
衛生対策

有機ガス用防毒マスク(JIS T 8152)、簡易防毒マスク等。
 化学防護手袋(JIS T 8116)
 側板付き保護眼鏡(必要により ゴーグル型または全面保護眼鏡)
 長袖作業衣
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
 取扱い後は手や顔など、露出した部分をよく洗い、うがいをする。
 保護具を脱ぐときは、保護具に付着した製品に触れないよう十分に注意すること。

特別な注意事項 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
情報なし

9. 物理的および化学的性質

物理状態	情報なし
形状	液体
色	無色～黄赤色
臭い	刺激性の甘い臭い、樟脳様エーテル臭
融点/凝固点	-45 °C
沸点または初留点および沸点範囲	88 °C
可燃性	情報なし
爆発下限界および爆発上限界/可燃限界	情報なし
引火点	-20 °C (CC): Merck(14th, 2006)
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	情報なし
溶解度	
水	8 g/100mL (25 °C)
その他の溶剤	可溶: エーテル、アルコール
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	0.95: HSDB(2002)
蒸気圧	71.5 mmHg (25 °C): Howard(1997)
密度および/または相対密度	約 0.88 g/mL (20 °C)
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	4: HSDB(2002)

10. 安定性および反応性

反応性	蒸気は空気と爆発性混合物を形成することがある。 過酸化物を形成する可能性がある。
化学的安定性	推奨保管条件下で安定。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	加熱、高温、裸火、静電気、スパーク、直射日光、衝撃、摩擦、混触危険物質との接触
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素(CO)、二酸化炭素(CO ₂)

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	ラット LDLo 値: 3,000 mg/kg(HSDB (2002))。(GHS 分類: 区分外)
経皮	情報なし(GHS 分類: 分類できない)
吸入	GHS の定義における液体である。(GHS 分類: 分類対象外)
皮膚腐食性/刺激性	情報なし(GHS 分類: 分類できない)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	情報なし(GHS 分類: 分類できない)
呼吸器感作性または皮膚感作性	呼吸器感作性: 情報なし(GHS 分類: 分類できない) 皮膚感作性: 情報なし(GHS 分類: 分類できない)
生殖細胞変異原性	情報なし(GHS 分類: 分類できない)
発がん性	情報なし(GHS 分類: 分類できない)
生殖毒性	情報なし(GHS 分類: 分類できない)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報なし(GHS 分類: 分類できない)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報なし(GHS 分類: 分類できない)
誤えん有害性	情報なし(GHS 分類: 分類できない)

12. 環境影響情報

生態毒性	
魚類	情報なし
甲殻類	情報なし
藻類	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生物蓄積性(BCF)	情報なし
土壤中の移動性	
n-オクタノール・水分配係数	情報なし
土壤吸着係数(Koc)	情報なし
ヘンリー定数(PaM3/mol)	情報なし
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 廃棄に際しては適切な保護具を着用すること。 廃棄の前に可能な限り無害化、安定化および中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にすること。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。 引火性が高いため十分注意すること。
汚染容器および包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、またはリサイクルに関する情報	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	1993
国連輸送名	Flammable liquid, n.o.s.
国連分類	CLASS 3
副次危険性等級	情報なし
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78 附属書 II および IBC コードによるばら積み輸送される液体物質	情報なし
国内規制	
陸上規制情報	道路法の規制に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規制に従う。
航空規制情報	航空法の規制に従う。
輸送または輸送手段に関する特別の安全対策	道路法、消防法の規定によるイエローカード携行の対象物。
その他の注意	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。 必要に応じて緩衝材なども用いて、輸送時の製品への衝撃が最小限になるように努めること。 重量物を上積みしないこと。 輸送時も静電気対策を怠らないこと。 万が一事故が発生した場合の処理剤なども携行すること。 事前に通行ルート of 十分な確認をし、輸送計画をしっかりと立て、無理のない安全な輸送をこころがけること。 運搬中に製品が著しく漏れるなど災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずるとともに、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

緊急時応急措置指針番号 128

15. 適用法令

労働安全衛生法	(令和8年施行分) 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第3号別表第9)【テトラヒドロピラン】 (令和8年施行分) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号、第3号別表第9)【テトラヒドロピラン】 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
消防法	第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
海洋汚染防止法	危険物(引火性の物質) 有害液体物質・Z類物質
航空法	引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)
船舶安全法	引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1)
港則法	その他の危険物・引火性液体類(法第20条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
外国為替及び外国貿易法	輸出許可貨物・補完品目(キャッチオール規制)

16. その他の情報

主な参考文献	安全データシート "Tetrahydropyran", 職場の安全サイト 2012/03/30 改訂版 chemicalbook 安全データシート "Tetrahydropyran", 2024/05/09 改訂版 安全データシート "Tetrahydropyran", 富士フイルム和光純薬株式会社 2023/12/28 改訂版 ウェブサイト "PubChem"(2024/08/27 アクセス) 安全データシート "Tetrahydropyran", 東京化成工業株式会社 2022/03/20 改訂版
--------	---

記載内容の取扱いについて

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

改訂履歴	2024/9/4	作成
	2026/3/25	安衛法改正による適用法令改訂